

定例市長記者会見録

日 時：9月18日(金) 午後1時30分～2時00分

場 所：本庁舎6階 特別会議室

出席者：一宮市 中野市長、福井副市長、田中副市長

報道機関 中日新聞、時事通信

本日の案件は5件です。

1番目は「一宮市下水道事業100周年を記念して『水フェス138』を開催します」についてです。

周年イベントはこれまで開催したことがなく、100周年で初めて開催することとなりました。

会場の東部浄化センターでは、普段は立ち入れないエリアも公開します。市民の皆さまにとって、蛇口をひねれば使える上水道は、比較的イメージしやすいと思いますが、その後に発生する生活排水や事業所などからの排水の処理は、あまりなじみがないかもしれません。近年は線状降水帯などの影響もあり、雨水処理に対する市民の皆さまの関心も高まっていると感じます。今回のイベントを通じて、汚水や雨水の処理を担っている下水道事業について、ぜひ関心を持っていただければと考えています。

イベントの目玉として、お天気キャスターの石橋武宜さんによる「お天気実験ショー」を予定しています。ショーの参加には事前に配布される整理券が必要です。当日に整理券を受け取られた方は、ショーの終了後に石橋さんとの写真撮影会にも参加していただけます。

「マンホールふたデザインコンテスト最優秀作品の表彰式」も行います。現在、候補作品は三つに絞り込まれています。市民の皆さまによる9月30日までのオンライン投票の結果、最も多くの票を獲得した1作品が最優秀賞に選ばれます。来年度から市内のマンホールふたの更新に合わせて、順次、最優秀賞に輝いたデザインのふたに置き換わっていく予定です。

企業展示・体験ブースでは、多くの事業者にご協力いただき、微生物観察、スマートボール、水とパイプで遊ぼう、工事車両展示・試乗および実演などを予定しています。他にも下水道100年の歴史展示や施設見学ツアーをはじめ、キッチンカー・マルシェも出店します。

お祭りとして楽しめる内容となっていますので、10月31日はぜひ会場へお越しください。

2番目が「『BISHU FES. 2026』の開催概要をお知らせします」についてです。

『BISHU FES.』は3年前の2023年から始まり、今回で4回目の開催となります。

一宮市を中心とする毛織物産地「尾州」の魅力をPRするため、3年前の初回は真清田神社で東京ガールズコレクション(TGC)のファッションショーなどを実施しました。今回もいろいろと工夫を凝らした催しを予定しています。日程は11月7日(土)・8日(日)です。

今年のファッションショーは〈BEAMS PLUS〉とコラボしたファッションショーと高校生ファッションショーです。高校生ファッションショーでは、一宮高等学校と修文学院高等学校の生徒が「尾州生地」で作った衣装を自らモデルとなって着用し、ランウェイを歩く予定です。元 AKB48 で、尾州ファッションアンバサダーの北原理英さんにもゲストとして参加していただきます。

「一宮コスプレランウェイ」は、7 日午後 3 時に公開リハーサルを行い、その後の本番へと続きます。こちらは一宮商工会議所の「コスチュームタウン構想事業」の一つで、「一宮七夕まつり」でもコスプレパレードに力を入れていただいています。コスプレイヤーによるランウェイでの華麗なパフォーマンスもあります。

新規イベントとして「石川俊介の〇〇〇in 尾州」を 8 日の午後 1 時から 3 時に開催します。石川さんが運営する YouTube チャンネルの出張トークイベントです。石川さんが手掛けるブランドは、たいへん人気があります。石川さんは「サステナブルな地産地消」に力を入れており、尾州地域の毛織物にも関心を持って活用していただいています。

〈BEAMS PLUS〉とのコラボによる「BEAMS PLUS LIMITED STORE in BISHU」の出店もあります。こちらでもサステナブルを意識して、地元の事業者や工場の残反（反物の残り）を利活用して〈BEAMS PLUS〉が製品化したアイテムを販売します。

「糸と布の市 in BISHU FES.」では、尾州産の糸と生地などの即売会を開催します。開催場所はイチ*ビル前の通路です。去年の同時期は、まだイチ*ビルがオープンしていませんでしたが、今回は名鉄一宮駅コンコースを大々的に使用できますので、この「糸と布の市 in BISHU FES.」のマルシェを盛大に開催しようと準備しています。

昨年は 2 日間で約 3 万 7,000 人のお客さまにご来場いただきました。今年は、その数字を越えられたらと期待しています。

3 番目が「賃上げ促進支援金の支援内容を拡充します」についてです。

本事業は今年度の予算プロジェクトとして、7 月から受け付けを開始しています。

市内の中小企業者をはじめ、個人事業主や社会福祉法人などを対象に、2025 年 1 月 1 日から 2026 年 12 月 31 日までの 2 年間に従業員の基本給を 3%以上引き上げた場合に、「従業員 1 人あたり 3 万円、上限 10 人まで、1 事業者あたり最大 30 万円」の枠組みで支援を行ってきました。制度開始から 2 カ月が経過し、現在の申請状況などから予算に余裕があると見込まれるため、支援内容を大幅に拡充することにしました。

10 月 1 日から最低賃金が大幅に引き上げられます。当地域では 1,140 円から 1,195 円に改定され、いよいよ時給 1,200 円の時代を迎えます。このような背景から、物価上昇に見合った、あるいはそれを超える賃上げに向け事業者を後押しするため、10 月からは「従業員 1 人あたり 5 万円、上限 30 人まで、1 事業者あたり最大 150 万円」へと大幅に拡充します。なお、9 月 19 日から 30 日までシステム改修のため特設サイトでの受け付けを一旦停止し、10 月 1 日から新しい内容で受け付けを開始します。

現時点で約 400 件の申し込みをいただいています。すでに申し込まれた事業者に対しても不公平が生じないように 1 人あたり 2 万円を上乗せした 5 万円で支給するよう配慮します。

群馬県が「従業員 1 人あたり 5 万円、上限 40 人まで、1 事業者あたり最大 200 万円」の支援を行っていますが、県内には例のない支援になります。市内の事業者の皆さまには、ぜひこの制度を利用していただきたいと思います。

4 番目が『給付付き税額控除』に係る国と地方の協議の状況について」です。

現在、国政の場で大変話題になっている「給付付き税額控除」については、本格的な導入が始まる 2 年後に向けて、つなぎの 2 年間は、飲食料品の消費税を 8% から 1% へと引き下げる事が閣議決定されました。今後、臨時国会で議論されると思います。

実施にあたっては、地方自治体への影響が非常に大きいため、国と地方による協議の場が設けられました。ここに、会長の広島市長とともに全国市長会を代表して私が財政委員会委員長として出席しています。また、社会文教委員会委員長として岐阜県飛騨市長、都市税制調査委員会委員長として岐阜県可児市長も出席されています。全国市長会から各委員長が出席し、地方の実情を踏まえた意見・要望を国に申し上げています。

全国市長会の財政委員会委員長として特に強く主張しているのは、国が主導して効率的な給付の仕組みを整えてくださいという点です。6 年前のコロナ禍における一律 10 万円の特別定額給付金から始まり、さまざまな政策目的に応じた給付金・支援金が支給されてきました。しかし、その都度場あたりの体制を組み、外部事業者に委託してコールセンターを設け、金融機関とやり取りを行っているのが現状です。事務費だけでなく、職員の業務負担も生じています。そこで、特に、今回の「給付付き税額控除」は恒久的な措置となるため、ぜひスマートな給付の仕組みを構築してくださいと、重ねて強く要望しています。

5 番目は「食料品物価高騰支援金の支給状況をお知らせします」についてです。

市では食料品物価高騰支援金として、今年の春から 5,000 円を支給させていただきました。

公金受取口座をマイナンバーにひも付けた方は、早期に支援金を受け取れますが、そうでない方は夏以降の支給になると案内して、公金受取口座の登録を呼びかけました。申請は 8 月末に締め切り、現在、書類の不備などがある約 1,000 人の方の最終処理を進めている段階です。最終の数値はまだ確定していませんが、実際に給付を受けた約 29 万 7,000 人に対し、7 割以上の方が公金受取口座で受け取っていただいています。当初は当市でも給付対象者に占める公金受取口座の登録率は約 57% にとどまっていましたが、その後の呼びかけにより最終的には 7 割近い状況となりました。「給付付き税額控除」や「就業者負担軽減支援金」についても、公金受取口座を活用する方針を国も固めていますが、ぜひ国においても、公金受取口座の登録の推進に取り組んでいただきたいという思いを込めて、公表しました。以上、私からの説明となります。

質疑応答

■『BISHU FES. 2026』の開催概要をお知らせします

(記者) <BEAMS PLUS>との新企画も含め、どのような狙いやテーマを打ち出したいとお考えですか？

(市長) 今回は、サステナブルなウールや毛織物をテーマに、尾州が日本一、そして世界でも有数の産地であることを打ち出せればと期待しています。(株) ビームスは、昔はアメリカンカジュアルなど海外のものを日本に仕入れるビジネスモデルでしたが、今はそれだけでなく、日本のいいものを世界へ発信することに力を入れています。この尾州の良さを、ぜひ一緒になって発信していけたらと期待しています。

(記者) サステナブルの核は、残反の活用ですか？

(市長) そうです。形が不ぞろいな端切れとは異なり、残反は反物として、しっかり巻かれた生地です。これを利活用した製品の販売を楽しみにしています。

■賃上げ促進支援金の支援内容を拡充します

(記者) 賃上げ促進支援金の財源は、全額が交付金ですか？

(市長) そうです。国からの物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金です。

(記者) 「県内には例がない」と自負されているのは、具体的にどの部分でしょうか？

(市長) 県内の他自治体でも、事業者支援として「DXの推進」や「省エネ設備導入」に対して補助金を出すケースは多く見られます。しかし、今回のように「賃上げ」に的を絞って支援金を支給する取り組みは当市だけです。

(記者) 現在の申請件数はどれくらいですか？

(市長) 9月11日のデータで、7月の受け付け開始から2カ月余りでの申請件数は389件、申請総額は6,069万円です。予算は6億円で、まだ5億円以上の余裕があります。

(記者) 支援単価と上限人数が変更されたとの理解でいいですか？

(市長) その通りです。

(記者) すでに申請のあった389件については、自動的に差額が補填されるのですか？

(市長) 事業者ごとに状況が異なりますので、個別に対応します。

(記者) 追加の申請は必要になりますか？

(職員) 人数を増やしたい場合は確認する書類が必要となるため、改めて申請していただくことになります。

(記者) 申請のあった389件は、市内全体の中小企業件数でどれぐらいの割合ですか？

(職員) 2021(令和3)年度経済センサスの数値では全体で約1万6,000件です。

■食料品物価高騰支援金の支給状況をお知らせします

(記者) 公金受取口座への給付が、実際に給付を受けた方の7割を超えていますが、スムーズに進んだという認識ですか？

(市長) 比較的スムーズに進みました。

(記者) 全国平均では公金受取口座を登録されている方はどれくらいですか？

(市長) 全国平均では、まだ 50 数パーセントにとどまっています。国と地方の協議の場合、国の資料では「かなり難しい」という趣旨が書かれていますが、工夫次第で市民の理解も得られます。その方向へインセンティブを設けて推進していきましょうという意図を込めて、今回発表しました。

(記者) 全国市長会でも発表するということですか？

(市長) そうです。先日、総務省自治財政局長へ口頭で報告しました。時期をずらすことで早期の受給が可能になることを周知した結果、市民の協力により口座のひも付け率が約 7 割に達したことを伝えたところ、局長から前向きな反応をいただきました。

国がマイナポイントで旗を振って公金受取口座のひも付けを進めたのが 5 年くらい前で、その頃から口座情報などが結構変わっています。今回、約 18 万人の公金受取口座に振り込んだところ、1% 近くの 1,466 人にエラーが出ましたが、主な原因は婚姻による名義変更や銀行・支店の統廃合によるものでした。

公金受取口座の情報は、国が一元管理している状況で、市から国へ情報提供を要請しても制限があり、1 日 6 万件しか教えてくれません。当市では約 30 万人分のデータを取得するだけで、5 日間を要することとなりました。

このような課題や意見について、実務者会議を通じて国に対して提起していきたいと思っています。